



知識とサポート Astra Data Store

NetApp
July 19, 2022

目次

知識とサポート	1
トラブルシューティング	1
ヘルプを表示します	1
サポートの自動監視	2

知識とサポート

トラブルシューティング

発生する可能性のある一般的な問題を回避する方法について説明します。

https://kb.netapp.com/Advice_and_Troubleshooting/Cloud_Services/Astra

ヘルプを表示します

ネットアップでは、Astra データストアのプレビュー版をさまざまな方法で提供しています。無償のセルフサービスサポートオプションは、ナレッジベース（KB）記事や Slack チャンネルなど、24 時間 365 日ご利用いただけます。



Astra データストアプレビュー版のコミュニティテクニカルサポートを利用できます。を使用してケースを作成します "[ネットアップサポートサイト（NSS）](#)" プレビューリリースでは使用できません。フィードバックオプションを通じてサポートに連絡するか、Slack チャンネルを利用してセルフサービスで連絡できます。

セルフサービスサポートオプション

次のオプションは、24 時間 365 日無料で利用できます。

- "[ナレッジベース（ログインが必要）](#)"

Astra Data Store プレビューに関する記事、FAQ、またはトラブルシューティング情報を検索します。

- ドキュメント

現在表示しているドキュメントサイトです。

- "[ネットアップの「コンテナ」 Slack チャンネル](#)"

「コンテナ」チャンネルに移動して、同業者やエキスパートと交流しましょう。

- フィードバック用 E メール

astra.feedback@netapp.com に電子メールを送信して、あなたの考え、アイデア、懸念事項をお知らせください。

詳細については、こちらをご覧ください

- "[ネットアップにファイルをアップロードする方法（ログインが必要）](#)"
- "[ネットアップの技術情報アーティクル](#)"

サポートの自動監視

AutoSupport は、Astra データストアプレビューシステムのランタイムおよび情報を監視し、ネットアップサポートにメッセージを送信します。構成に応じて、次のシステムコンポーネントを監視できます。

- コントロールプレーン
- ストレージ

AutoSupport は、の実行時にデフォルトで有効になります "[Astra データストアプレビュー版クラスタのインストール](#)" または、AutoSupport のカスタムリソース（CR）をクラスタに適用したあとに追加します。有効にすると、AutoSupport（ASUP）バンドルが自動的にアップロードされます "[ネットアップサポートサイト（NSS）](#)" または、手動でダウンロードすることもできます。

オプション（Options）

- [\[AutoSupport triggers and scenarios\]](#)
- [\[Configure custom control plane AutoSupport collection\]](#)
- [\[Configure custom storage AutoSupport collection\]](#)
- [\[List ASUPs in the system\]](#)
- [\[Download an ASUP Bundle\]](#)
- [\[Upload a core file\]](#)

AutoSupport のトリガーとシナリオ

AutoSupport バンドルは、次の方法でトリガーされます。

- * 定期的 * : CR で定義された間隔で ASUP バンドルが作成されます。
- * ユーザトリガー * : 自分の ASUP を手動で作成して、ログを参照できます。
- * コアダンプ * : ノードにコアダンプがある場合は ASUP が生成され、コアがネットアップに送信されて詳しい調査が行われます。
- * CallHome イベントベース * : オペレーティングシステムから特定の callhome イベントから ASUP が生成されます。
- * Kubernetes イベントベース * : コントロールプレーンの特定の Kubernetes イベントから ASUP が生成されます。

これらのトリガーシナリオでは、次のいずれかの AutoSupport タイプが生成されます。

- * ControlPlane AutoSupport * : Astra データストアプレビューコントロールプレーンログと CRS のコレクション。
- * Storage AutoSupport * : ストレージ・レポートとパフォーマンス・データの集合。
- * コアダンプ AutoSupport * : システムコアダンプの集まり。

カスタムコントロールプレーンの AutoSupport 収集を設定します

コントロールプレーンイベントをレポートするカスタムの AutoSupport 収集設定を作成できます。ほとんどのインストールでは、定期的なイベントレポートがの間にデフォルトで有効になっています "[Astra データストアプレビュー版クラスタのインストール](#)"。この手順では、選択したパラメータに基づいてレポートする

AutoSupport CR を設定する方法について説明します。

手順

1. コントロールプレーンコレクション CR を作成するには、次のコマンドをカスタマイズします。

```
kubectl astrasds asup collect -c controlplane --namespace=astrads-system
```

- a. カスタムパラメータを定義します。

- `<myASUPNAME>` : 生成する AutoSupport CR の名前。
- `-e <event name>` : コレクションをトリガーするイベント名。イベント名は `component.yaml` (コントローラをサポートするためにマウントされている) で事前に定義する必要があります

例

```
kubectl astrasds asup collect -c controlplane custom-asup-name -e debug --namespace=astrads-system
```

- a. 必要に応じて、システムに追加のパラメータを追加します。

- `--cluster` : このフラグはマルチクラスタ環境が必要です。
- `--localCollection` : ローカルコレクションをイネーブルにします。デフォルトは「false」です。
- `--forceUpload` : 強制アップロードを有効にします。デフォルトは「false」です。
- `--retry` : 再試行を有効にしますデフォルトは「false」です。

カスタムのストレージ **AutoSupport** による収集を設定する

ストレージコンポーネントのイベントをレポートするカスタムの AutoSupport 収集設定を作成できます。ほとんどのインストールでは、定期的なイベントレポートがの間にデフォルトで有効になっています ["Astra データストアプレビュー版クラスタのインストール"](#)。この手順では、選択したパラメータに基づいてレポートする AutoSupport CR を設定する方法について説明します。

手順

1. 次のコマンドをカスタマイズして、ストレージ収集 CR を作成します。

```
kubectl astrasds asup collect -c storage --namespace=astrads-system
```

- a. カスタムパラメータを定義します。

- `<myASUPNAME>` : 生成する AutoSupport CR の名前。
- `-e <event name>` : コレクションをトリガーするイベント名。イベント名は `component.yaml` (コントローラをサポートするためにマウントされている) で事前に定義する必要があります

パフォーマンスイベントを使用した例：

```
kubectl-astrads asup collect -c storage -e performance example-perf-storage-asup
```

- ° `-t <iso_format> -d <hours>` : すべてのノードのストレージ ASUP を指定した期間収集します。標準の ISO 日付時刻形式 (-t) を時間単位で継続時間 (d) で使用します例 :

```
kubectl astrads asup collect -c storage -t 2021-01-01T15:00:00Z -d 24
```

- ° `--nodes <nodename>` : 指定したノードのストレージ ASUP を収集します。例 :

```
kubectl astrads asup collect -c storage --nodes example1
```

- ° `--ノードノード nodename1 、サブグループ 2 、サブグループ 3` : 指定したノードのストレージ ASUP を収集します。

```
kubectl astrads asup collect -c storage --nodes example1,example2,example3
```

a. 必要に応じて、システムに追加のパラメータを追加します。

- ° `--cluster` : このフラグはマルチクラスタ環境で必要です。
- ° `--localCollection` : ローカルコレクションをイネーブルにします。デフォルトは「false」です。
- ° `--forceUpload` : 強制アップロードを有効にします。デフォルトは「false」です。
- ° `--retry` : 再試行を有効にしますデフォルトは「false」です。

システム内の **ASUP** をリストします

次のコマンドを使用して、システム内の ASUP を名前別に表示します。

```
kubectl astrads asup list --namespace=astrads-system
```

回答例 :

NAMESPACE	NAME	SEQUENCE NUMBER	EVENT
SIZE	STATE	LOCAL COLLECTION	
astrads-system	storage-callhome.reboot.unknown-...	1	
callhome.reboot.unknown	0	uploaded	astrads-ds-support-tdl2h:
astrads-system	storage-callhome.reboot.unknown-...	2	
callhome.reboot.unknown	0	uploaded	astrads-ds-support-xx6n8:
astrads-system	storage-callhome.reboot.unknown-...	3	
callhome.reboot.unknown	0	uploaded	astrads-ds-support-qghnx:

ASUP バンドルをダウンロード

このコマンドを使用すると、ローカルで収集した ASUP バンドルをダウンロードできます。現在の作業ディレクトリ以外の場所を指定するには '-o <location>' を使用します

```
./kubectl-astrasds asup download <ASUP_bundle_name> -o <location>
```

コアファイルをアップロードします

サービスがクラッシュすると、クラッシュ（コアファイル）時に関連するメモリの内容を含むファイルとともに AutoSupport（ASUP）メッセージが作成されます。Astra Data Store プレビューでは、ASUP メッセージがネットアップサポートに自動的にアップロードされますが、コアファイルを手動でアップロードして ASUP メッセージに関連付ける必要があります。

手順

1. 次の「kubectl」コマンドを使用して ASUP メッセージを表示します。

```
kubectl astrasds asup list --namespace=astrads-system
```

次のような出力が表示されます。

NAMESPACE	NAME	SEQUENCE NUMBER	EVENT
SIZE	STATE	LOCAL COLLECTION	
astrads-system	storage-coredump-2021...	1	coredump
197848373	compressed	astrads-ds-support-sxxn7:/var/...	

2. 次の「kubectl」コマンドを使用して、ASUP メッセージからコアファイルをダウンロードします。ダウンロードするファイルの保存先ディレクトリを指定するには '-o オプション' を使用します

```
kubectl astrads asup download storage-coredump-20211216t140851311961680  
-o <absolute_path_to_destination_directory>
```



まれに、他のコアファイルが適切に処理されていたために、コアファイルをダウンロードできない場合があります。この場合、コマンドは「Cannot stat : No such file or directory」というエラーを返します。このエラーが表示された場合は、を実行できます "[ヘルプを表示](#)"。

3. Web ブラウザを開き、を参照します "[NetApp Authenticated File Upload ツール](#)"ログインしていない場合は、ネットアップサポートのクレデンシャルを入力します。
4. [ケース番号を持たない *] チェックボックスをオンにします。
5. [* Closest Region] * メニューで、最も近いリージョンを選択します。
6. [* Upload (アップロード)] ボタンを選択します。
7. 前の手順でダウンロードしたコアファイルを参照して選択します。

アップロードが開始されます。アップロードが完了すると、成功のメッセージが表示されます。

詳細については、こちらをご覧ください

- "[ネットアップにファイルをアップロードする方法（ログインが必要）](#)"

著作権情報

Copyright © 2022 NetApp, Inc. All rights reserved. 米国で印刷されていますこのドキュメントは著作権によって保護されています。画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体などの機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。テープ媒体、または電子検索システムへの保管-著作権所有者の書面による事前承諾なし。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、いかなる場合でも、間接的、偶発的、特別、懲罰的、またはまたは結果的損害（代替品または代替サービスの調達、使用の損失、データ、利益、またはこれらに限定されないものを含みますが、これらに限定されません。）ただし、契約、厳格責任、または本ソフトウェアの使用に起因する不法行為（過失やその他を含む）のいずれであっても、かかる損害の可能性について知らされていた場合でも、責任の理論に基づいて発生します。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、またはその他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1 つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許により特許、その他の国の特許、および出願中の特許。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7103（1988 年 10 月）および FAR 52-227-19（1987 年 6 月）の Rights in Technical Data and Computer Software（技術データおよびコンピュータソフトウェアに関する諸権利）条項の（c）（1）（ii）項、に規定された制限が適用されます。

商標情報

NetApp、NetAppのロゴ、に記載されているマーク <http://www.netapp.com/TM> は、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。